

令和3年度
学校評価
総括

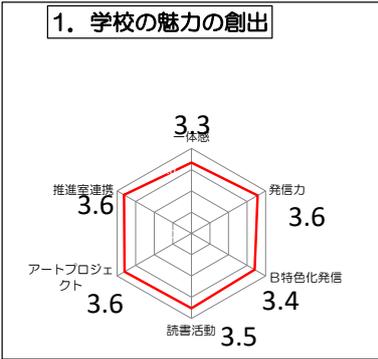


この「総括」は、学校評価に答えていただいた全ての協議委員、保護者、教職員の回答を項目ごとにまとめ、平均値をチャート化して表したものです。

詳しくは、別配の「令和3年度 学校評価 集計結果と今後の方針」を御覧ください。

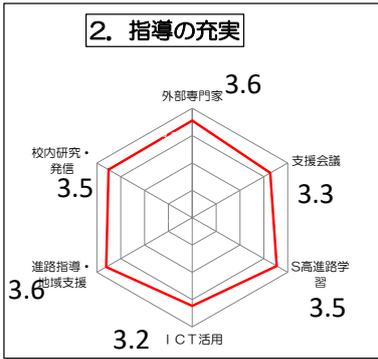
東京都立 光明学園

令和3年度 学校評価 集計結果とまとめ 総括

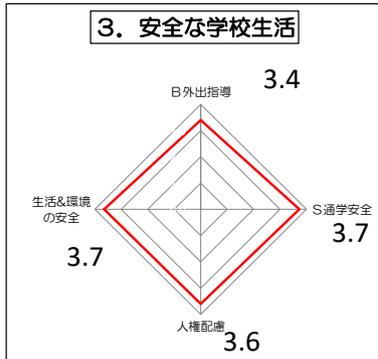


今年度は両部門の学園生の読書活動推進として図書貸出システムの本格稼働、「読書月間」「POPコンテスト」等の取組を行いました。読書活動が学園生に定着してきていると評価していただきました。また、東京都特別支援学校読書活動推進校としての活動にも力を注いでいきます。「アートプロジェクト」の取組は、本校の特色として知られるようになり、見学者、関係機関からも称賛をいただいています。

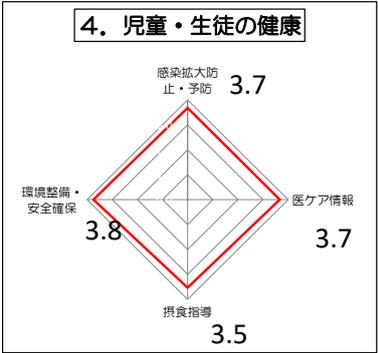
また、コロナ禍においても、多くの方に本校の教育内容を広く知っていただける機会をもてるように、ホームページやTwitterを用いて、常に情報発信しています。内容を充実させて、今後も本校の教育活動を内外に御理解いただけるよう努めてまいります。



コロナ禍の中で、GIGAスクール端末の使用や、自宅待機の児童・生徒に対するオンライン授業も定着してきました。その様子をタイムリーに発信できるように工夫していきます。先日、「全国公開研究会」をオンラインで実施し、全国から330名の方々が、光明学園の実践に関心を寄せて下さいました。その中には、児童・生徒にとって分かりやすい授業に改善していくシステム「授業者支援会」の発表もありました。こうした校内研修の様子や成果について、分かりやすく発信し、校内のICT活用について御理解いただけるように努めてまいります。

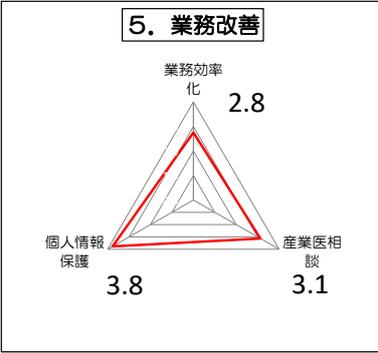


B部門生徒の一人通学と一人外出については、個別の目標・計画・実施開始を推進することが必要であると考えております。S部門児童・生徒の通学手段は多岐にわたります。今年度は、スクールバスの安全な運行のために、教職員乗降確認研修、乗務員緊急時研修を実施しました。医療的ケア専用車両についても、乗務員と教職員間の引継ぎを行っています。北棟完成に伴い、生活環境や動線が変わりました。常に生活環境や施設運用の見直しを進めています。コロナ禍は、児童・生徒の心の安定にも影響しています。一人一人の様子を教職員が連携して丁寧に見守り、支援していきます。安全な学校生活について、保護者の皆様とも連携して進めてまいります。



感染症対策を中心とした「健光の橋」、医ケア情報（特に関心の高い初期食シリンジ注入・専用通学車両）を中心とした「光明の橋～医ケア版～」で、学校の取組の発信や情報の提供に力を入れてきたことを評価していただきました。保護者と教職員の数値の差がありませんことも特徴です。感染症対策はこれからも続きますが、御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。

摂食指導については、御家庭との連携の大切さを改めて感じています。コロナ禍以前に実施していた給食試食会が開催できなくなり、給食指導のねらいや考え方を伝える機会がなくなってまいりましたが、試食なしの研修会など、実施方法を検討してまいります。教職員対象の摂食指導研修会も実技は難しいですが、映像等を利用し、指導技術の向上に努め、給食指導に生かしてまいります。



業務の効率化については評価が低くなりました。3学期以降、一つの職員室に集約されて、教員には仕事がしやすい最新のデスクが配置されたり、打ち合わせコーナーや作業スペースを設置するなど、業務効率化につながるような執務環境の改善に努めています。

産業医相談については平日の授業時間中に設定されているため、利用しにくい状況もございますが、8月の産業医相談を活用していただいたり、産業医相談以外にも精神保健や一般相談について東京都で実施している相談の活用ができるように教職員に相談の機会についてご紹介してまいります。

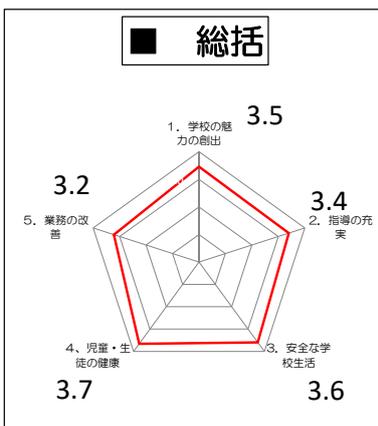
個人情報保護については高い評価をいただきました。新しい職員室で引き続き高い意識をもって取り組んでまいります。

※ グラフの数値について

- 1～5のグラフは、各設問の回答数値の全体平均値を表しています。
- 学運協委員、保護者、教職員の回答区分ごとに、「未回答者」と「わからない」を除いた全回答の平均値としています。
- 一番下の「■ 総括」の数値は、1～5のカテゴリーについて各設問の平均値をさらに平均して求めた数値をカテゴリー別に示しています。

※ グラフの線について

レーダーチャート内の赤色の実線（——）は今年度のポイントを示しています。



▶ 学校評価にアンケート作成ツールを初めて活用しました。回答作成が容易になりましたが保護者回答率が低く、保護者回答率を上げていくことが課題の一つとなりました。学園生の健康の保持・安心安全の確保・いじめ体罰自殺防止に関する全ての設問について、保護者の肯定的評価が95%を超えました。スクールバス・医療的ケア専用通学車両に関する教職員及び乗務員への研修実施、総合防災訓練の実施、感染症予防対策の徹底など、各種通信やホームページやtwitterで発信を継続し続けたことが肯定的評価につながったと考えられます。

▶ 医療的ケアの安全な実施環境については90%後半の高い肯定的評価を得ましたが、個別の御意見には、コロナ禍では直接話す機会が限られた中で看護師等との個別的なやりとりの充実を望む声もあり、新たな日常に応じた信頼関係の充実が課題となりました。

▶ 学習指導・専門性向上については、摂食指導・ICT機器や支援機器活用、外部専門家等の有識者活用など、個別具体的な取組みに対する肯定的評価が90%に届きませんでした。一方で、読書活動、光明アートプロジェクトに対する肯定的評価は90%を超えました。学校全体として発信の機会が多い活動への評価が高く、個別的・日常的な取組についてよりよく理解していただくために、学部・学年・担任からの情報発信の時期や内容の改善を図る必要があると考えています。

▶ 長引くコロナ禍において、「学園生の命を守る」を第一に「学びを止めない」よう全力を尽くしてまいりました。教育活動の制限がある状況下で、肢・病併置校の魅力について、90%を超える肯定的評価を得ました。地域支援や進路指導については昨年度来、自立と社会参加に向けた切れ目のない支援の実現について取組んできました。90%を超える肯定的評価を得て、これを励みとしていきます。

▶ ライフワークバランスに関する取組では、業務の効率化が継続課題となっています。頂戴しました評価や御意見を今後の学校経営の改善や学校経営計画の具現化に役立ててまいります。改善した内容につきましては、各種通信や全校保護者会等で随時お知らせいたします。